

学びの道しるべ R6

小松市立松陽中学校

1. 全国学力・学習状況調査結果（本校と石川県・全国との正答率の比較）

	石川県	全国
国語	平均並み	上回る
数学	上回る	大きく上回る

全国との比較においては、国語は上回る、数学は大きく上回る結果となりました。県との比較においては、国語は平均並み、数学は上回る結果となりました。

本校の特徴として、選択問題にたいして、しっかりと考えた上で答えを導き出して応えている生徒が多いことが挙げられます。しかし一方で、無解答が多いことが課題です。

2. 設問ごとの良好なもの（◎）と課題となるもの（△）

国語
◎本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する問題がよくできていた。
◎文章の内容に応じて、意味を考えながら漢字を書くことがよくできていた。
△本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約するところに課題がある。授業のさまざまな場面で要約に取り組む。文章の内容はどんなものだったか尋ねたり、要約を書く時間を取ったりする。どこがポイントかを押さえ、目的に応じて要約できるように指導・実践する。
△物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択するところに課題がある。資料と選択肢を対応させて解答することができるように、日頃から複数の資料を関連付けて考える取り組みを行う。
△短歌に詠まれている情景の時間帯の違いを捉え、時間の流れに沿って短歌の順番を並べ替えるところ。条件を落とすことなく、問題文を読み取ることができるように指導していく。
数学
◎文字を用いて数を表すことがよくできる。
◎各単元の基本的な知識は定着していることがわかった。
△数の性質について予想し説明する問題や、箱ひげ図から読み取り説明する問題、また、グラフから事象を読み取る問題に課題がある。授業の中で、数学用語を使って説明させる場面を増やしていく。
△図形の証明問題に課題がある。わかっていることを図に書き込ませるなどして、説明する力をつけていく。
解答の様子
◎基礎的・基本的な問題についてはよくできていた。
◎記号問題はよく考えて答えを導き出している傾向が見られた。
△問題によって無解答が多いことに課題がある。記述問題について特に無解答が多いため、授業の中で書くためのモデルを示すなどして、自分の考えを表現する力をつけていく。

学力とは、知識・技能、思考力・判断力・表現力等、主体的に学ぶ力であり、この学力調査は、これらの学力の特定の一部を推し量るものです。

3. 質問紙調査の結果から良好なもの(◎)と課題となるもの(△)

◎「将来の夢や目標を持っている」、「学校に行くのは楽しい」、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人に相談できる」と回答した生徒の割合が高い。

◎「地域や社会をよくなるために何かしてみたい」と回答した生徒の割合が高い。獅子舞など地域行事に参加しやすく、社会や地域に貢献できることが多くなってきている。

△「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」「自分には、よいところがある」の二つの質問において肯定的に回答した生徒の割合が低い。学校における各種場面において、個々の特性を活かした活躍機会の模索、提供や、生徒を認め高める様な細かな言葉掛け等を通じ、将来の夢や目標の達成に向け、各人が自信を持って歩んで行ける様に、自己肯定感を育てていく。

△平日、土曜日や日曜日など学校が休みの日の学習時間が、大変少ない傾向にある。家庭学習の取り組みを徹底、継続させていく。学校からの課題以外に自ら課題を見つけ取り組むための時間を確保できるよう、時間の使い方について生徒ともに考える機会を作る。

4. 全国学力・学習状況調査、質問紙調査の結果を踏まえた取組について

学校での取組

基礎基本の定着に向けて

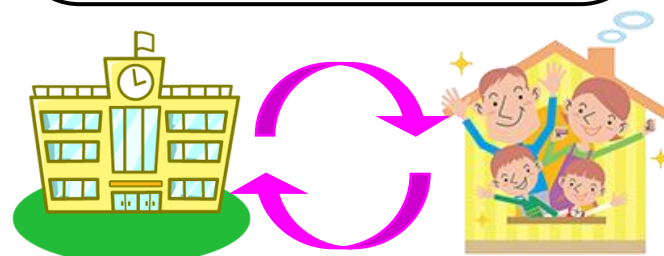
- 家庭学習プロジェクトを継続し、基礎的・基本的な知識、技能の定着を図るとともに、現在必要な活用力につなげられるようにする。
- Qubena や MEXCBT 等を計画的・効果的に活用し基礎基本の定着および、応用力の向上を図る(授業、家庭学習で活用)。
- 基礎基本の定着が図られているか、小テストや単元プリントなどを用いて、授業内で確認しながら定着の度合いを測る。

活用力の向上に向けて

- ICT を積極的且つ効果的に授業で活用するとともに、情報活用能力の育成を念頭に、自分の考えを、根拠をもとに説明する力を養う。
- 複数の資料を正しく読み解き、自分の考えを表現する活動や、既習を活用して表現する活動を取り入れ、表現力を高める。
- 知識を活用する仕方を学ぶ活動を、授業や日常生活の中で取り入れ、力を付けていく。

その他の取組

- 自己肯定感を高めていくため、サミット委員の活動(意思疎通ゲーム等)を継続的に行い、互いを認め合う温かいクラス作りに励む。
- 生徒が安心安全に過ごせるクラス・学校づくりのための取組を、学活や道徳、日常のあらゆる場面を通して継続して行う。
- 授業はもちろん、SY ミッションなどを通して自分の意見を述べる活動を継続して行い、互いを認め合う活動を積極的に行っていく。



ご家庭にお願いしたいこと

- SNS等の使い方について、ご家庭で約束事を決めてください。また、約束事を決めるだけでなく、安心・安全に使用できる環境を作ってください。お子様に何かあったとき、すぐ相談できるよう見守りをお願いします。
- 一日の中で、お子様とふれあう時間を作り、お子様の学校での様子や関心事、嬉しかったことや悩みなどをぜひ共有してください。そうすることで、将来への希望が持てたり、自他を大切に思ったりする気持ちが高まります。ご家族とのふれあいはお子様のエネルギーのもととなります。
- タブレット端末を家庭に持ち帰り学習することがあります。特に、AIを搭載したQubenaやMEXCBTを用いての学習は、基礎基本の定着および応用力の向上のため学校でも活用しており、大変有効と考えています。また、その他のアプリ等でも学習を進める場合があります。持ち帰りの際の破損やその他のトラブル等でご不安もあるかと思いますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。